

## 平成31年度 義務年限内の自治医科大学卒業医師の要望状況【内科系総合医】

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望	派遣	要望			H29	H30
		①		②				
安来市	安来市立病院 (148床)	2	0	2	<p>安来市立病院は、救急告示病院として安来市全域の二次救急を主体とした急性期医療を担うと共に、市の南部に広がる中山間地域に無医地区を3ヵ所（奥田原・西谷・草野）抱え、過疎と高齢化が進行する中、地域医療拠点病院としての役割は重要なものとなっている。</p> <p>当院では、平成22年度より地域医療拠点病院としての役割を果たすべく「無医地区巡回診療」（奥田原・西谷）を開始し地域医療の確保に努めている。</p> <p>しかし、常勤医は平成28年3月に内科医2名、平成29年3月に内科医1名の退職があり、現在15名で特に内科診療に支障をきたしている現状。</p> <p>また、医師が定年退職等で年々減少する中、現時点でも3名が65歳を超え、定年を延長しての勤務者であり、来年度以降さらなる減少が見込まれている。</p> <p>こうした状況を踏まえ、以前から当院では医師確保を喫緊の課題として捉え、医師の確保に向けた取り組みを行ってきたが、地方における医師の確保は困難を極め、見通しが立たない現状。</p> <p>については、今後も継続した地域医療の確保を図るために、地域の状況に対応できる総合医を派遣いただくよう切に要望する。</p>	Ⅱ	14	15
	安来第一病院 (381床)	2	0	2	<p>当院は、安来地域の不足医療を解消するため、乳腺外科、腫瘍内科、循環器・消化器内科等の専門外来を含め18診療科を設置し、急性期から在宅まで医療・保健・福祉を三位一体で提供している。</p> <p>そして、地域医療拠点病院として、訪問診療による安来地域の在宅におけるがん緩和ケアも提供している。また、平成29年度実績で遠隔医療等の各種診療支援については年間159件の依頼があり、地域住民への医療を確保している。</p> <p>「在宅療養後方支援病院」及び「地域包括ケア病棟」の施設基準を取得しており、在宅医療を提供する地域の医療機関と連携して、緊急時の受診、入院に速やかに対応できるよう努めている。診療所、病院等から要請を受け、協同して在宅医療を行うとともに、訪問看護、訪問リハも強化している。</p> <p>また、島根県から「認知症疾患医療センター」の指定を受け、認知症の診断や初期対応、相談等を行っている。地域の医療機関や関連する施設と連携し、症状や状態に合わせて予防や治療、入院、入所など選択・利用できるように取り組んでいる。</p> <p>また、島根県の地域医療構想における安来市の課題の中に、県外の医療機関での急性期治療を終えた患者の受け皿不足の解消がある。そこで平成30年12月には、安来地域の中核病院としての役割を担える診療機能を充実させた新診療棟を整備する。</p> <p>しかし、安来市及び周辺地域医療を支えていこうとする当院にとって、現在の常勤医が高齢化しつつあり、年々増加傾向にある訪問診療や看取りを安定して継続するためにも、常勤の総合医が早急に必要となっている。</p> <p>そして今後、益々重要視される在宅医療を担う診療所をバックアップするためにも内科系総合医の確保が必要なため、是非、派遣して頂くようお願いする。</p>	Ⅱ	18	18

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
雲南市	雲南市立病院 (281床)	1	0	1	<p>当院においては、1日平均外来患者数が385.4人（H29年度実績）で、その内、内科外来患者数は80.7人（平成28年度82.4人）であり、医師数は内科系の常勤医師が4名（地域ケア科含む）である。内科医師が充足していた時には現在の2倍近い患者数であったが、現状の医師数では今の患者数が限界である。また、救急患者数についても、内科医師が一番充足していた平成16年度には年間約1万人受入れていたが、H29年度は5,152人（H28年度4,440人、H27年度3,950人）であり、徐々に受入れ人数を増やしてはいるが、ピーク時に比べ半数程度という状況である。このことにより、以前は圏域内で完結出来ていた患者が、当院の医師不足により圏域外への流失を招き、結果として松江圏域、出雲圏域の三次医療機関への負担増に繋がっている。</p> <p>この現状を少しでも改善していくため、地域総合診療科を設立し、外科系医師を中心に救急患者の初期診療や、診療科が不明な患者の対応などに従事しており、救急患者の受入れに努めているが、依然として三次医療機関への負担軽減に十分に寄与できていない。この状況下において圏域外への患者流失を最小限に留め、三次医療機関の救急を担う医師の負担を軽減するためには、内科系総合医を配置し、内科診療の充実を図ることが必要である。</p> <p>また、これまで地域医療拠点病院として圏域内の医療機関に対し、CT・MRIなどの高度医療機器の提供や、町立奥出雲病院に耳鼻科医師を、飯南町立飯南病院に整形外科医師を週1回派遣し、連携強化に努めている。診療所との連携についても、これまで掛合診療所に診療支援として、内科系総合医を週1回、整形外科医を月1回、整形系疾患診療に月1回医師を派遣している他、診療所常勤医師の不在時には代診医を派遣している。</p> <p>なお、掛合診療所については、平成31年度から経営統合し雲南市立病院の附属診療所とすることとしており、引き続き外来診療の安定的な提供と訪問診療や在宅看取りを推進するなど、医療資源が乏しい掛合・吉田地域の医療充実にも努めていきたいと考えている。</p> <p>この他、地域包括ケアシステムの構築が求められる中において在宅医療も推進していく必要があるが、在宅医療を中心的に担っている開業医について、雲南市では高齢化や後継者不足などの影響により、対応が困難な状況になっており、中核病院である雲南市立病院に求められる役割がこれまで以上に大きく多岐に渡ってきている。これに対応するため、当院においては訪問診療などの在宅医療を担う部門として平成28年度「地域ケア科」を開設し、総合医2名体制で取り組んでいるが、訪問診療等は日増しに需要が増加してきており（H28年度実績：訪問診療26件、看取り2件、H29年度実績：訪問診療105件、看取り19件）在宅医療も担える総合医の確保が必要不可欠である。</p> <p>以上のことにより、内科系総合医の派遣を切に要望する。</p>	Ⅱ	21	20

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
雲南市	平成記念病院 (115床)	1	0	1	<p>当院は雲南圏域唯一の民間病院として、外来・入院・透析の3つを柱として地域医療に取り組んでいる。今年度、外来患者数は9月末現在で20,479人で1日平均約141人、入院は一般病棟が60床で1日平均入院患者51人、病床利用率85.1%、医療療養病床が55床で1日平均入院患者49人、病床利用率88.7%となっている。</p> <p>透析治療では、雲南圏域内の透析患者約100人のうち60名程度を受け入れ、また通院ができない方へは送迎を行い、患者様のニーズにお応えしている。</p> <p>また、地域医療拠点病院としてMRI、CT撮影及び読影による遠隔医療等の診療支援のほか、福祉施設との連携、学校での検診等地域医療を担っている。</p> <p>しかしながら、当院の常勤医師はこここのところ3名から4名と極めて少ない状況が続いており、現在では常勤医師4名で地域医療を守っている。年々、医師の疲弊は増しており、圏域内の開業医も減少している状況下において、このままでは地域に現状の医療を提供し続けていくことが困難になるものと危惧している。</p> <p>現在提供している医療を維持し、地域医療を守っていくためには、当院において少なくとも5名の常勤医師が必要である。よって自治医科大学卒業医師の派遣依頼を行うものである。</p>	Ⅱ	4	4
奥出雲町	町立奥出雲病院 (140床)	1	0	1	<p>平成26年3月で常勤医師2名の定年退職により、同年4月から常勤医師6名体制となり、さらに平成29年3月には常勤医師1名が退職し、常勤医師5名体制となった。平成30年7月には常勤医1名が増えたが、その医師は平成31年3月末までの勤務の予定であり、平成31年度からは再び常勤医5名体制となる。そのうち内科専門医は1名で、十分な内科診療の体制が執れていない状況である。</p> <p>診療圏域の対象人口は、奥出雲町と近隣を含めた16,000人に対し、内科外来の過去1年間の患者数は11,832人(1日平均48.5人)、内科入院の年間患者数は、16,249人(1日平均44.5人)であり、内科専門医は常に約40人の入院患者を受け持っており、負担が懸念され、体調不良が心配される。</p> <p>これ以上に常勤医師数が減員する様な事になれば救急告示病院としての体制が執れないばかりか、奥出雲圏域の地域医療拠点病院としての機能が果たせなくなる。</p> <p>これまでは現場の医師の頑張りで、地域の医療はかろうじて持ちこたえられている状態だが、医師確保は自治体や病院の努力だけでは、なかなか成果が得られない状況。</p> <p>町や病院の実情を考慮していただき、内科系総合医を派遣していただくことで、常勤医師への負担が軽減し、奥出雲町民が安心して暮らせる地域医療に繋がるよう努めるので、ご支援賜りたい。</p>	Ⅱ	5	6

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
飯南町	町立飯南病院 (48床)	2	1	2	<p>現在、飯南病院の常勤医師は、内科医師6名の体制で、その内、義務年限内の医師1名をあわせ、島根県からの派遣医師は5名。</p> <p>また、町立来島診療所については、平成28年4月から常勤の医師が不在となり、その診療については、飯南病院の内科医師がその都度出向いて行っている状況。</p> <p>平成29年度の患者のうち内科の患者数は、外来が年間17,355人で医科全体の64.5%、入院では年間11,170人で医科全体の91.5%を占めている。</p> <p>内科受診患者を地域別でみると、飯南町の割合が91.8%を占めている。更に、平成27年度と平成28年度の比較は、内科外来患者数が1.0%の増加、内科入院患者が5.1%の減少となっている。整形外科患者数も減少したが、外来、入院とも前年並みの水準を保っており、内科系総合医が外科系外来に対応するとともに入院患者の主治医となる現状には変化がない。</p> <p>また、町内唯一の救急告示病院であり、時間外患者数及び救急車による搬入患者数は年間1,532人で、1日平均患者数は4.2人となっている。このうち救急車による搬入患者数は、年間90人。</p> <p>これらの数値から内科診療は当院の医療の中心を為すもので、この地域にとって無くてはならない重要な診療科目である。</p> <p>最寄りの高次医療機関までは圏域内外のいずれの病院へも、車で1時間程度を要する。町内はもとより雲南市及び美郷町の一部からも患者を受け入れる当院医療の維持のためには、今以上の常勤医の確保が不可欠。</p> <p>病院でありながら診療所的な性格を持つ当院は、かかりつけ病院・かかりつけ医としての役割もあり、これを機能させるためにも内科系総合医師の配置が必要。</p> <p>町内には特別養護老人ホームなどの介護福祉施設に240人余の入所があるほか、高齢者世帯も多い（町内世帯の三分の一は高齢者のみの世帯）ことから、施設診療や在宅診療も重要な課題。この高齢者をはじめとする在宅支援をバックアップするためにも、入院機能の維持強化が必要となっている。</p> <p>5名の常勤医師で飯南病院の通常診療業務や救急医療に対応することは、非常に厳しい状況にある。また、待機も含めた日当直業務が月6～7回となり、非常に大きな負担となっている。</p> <p>町立来島診療所との連携強化を進めるとともに、「救急・時間外対応の充実」「高齢者医療の充実」「予防医療の充実」など、この地域に必要な医療機能への特化を図るなどの取組を行っている。地域拠点病院としての機能を維持・充実し、地域包括医療・ケアについてより一層の取組を進めるためにも、内科系総合医師の増員は必要不可欠であり、飯南病院では常勤医師7名体制の確保目標を掲げている。</p> <p>高齢化の著しい本町で地域住民の求める医療の提供、展開をするため、また、町内唯一の入院機能及び緊急対応機能を維持するとともに、地域医療の拠点として、次の活動を確保していく必要があることから、内科医師の増員派遣を強く要望する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の医療機関（へき地診療所）との連携（診療支援・検査協力等）</li> <li>・在宅療養支援のための訪問診療（訪問看護ステーションとの連携）</li> <li>・町が実施する特定健診などへの協力及び支援</li> <li>・介護福祉施設等の入所者の診療</li> <li>・初期臨床研修医を含めた医療従事者の地域研修の充実</li> <li>・院外研修により地域医療を支えながら、広い診療能力の維持や新しいスキルの獲得</li> </ul>	I	6	5

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
川本町	社会医療法人 仁寿会加藤病院 (81床)	1	0	1	<p>はじめに) 加藤病院を運営する仁寿会は、永年の僻地医療分野での公益活動が評価され、平成23年8月1日に社会医療法人仁寿会として島根県知事の認定を受けた。社会医療法人仁寿会は、公益性の高い非営利組織としてこれまで以上に地域医療に貢献していく。</p> <p>現在、加藤病院は強化型在宅療養支援病院として在宅医療を基軸とする包括的な地域医療・介護サービスを提供している。病床数81床のうち、地域包括ケア病棟55床は主にサブアキュート機能を担い、26床の在宅復帰強化型の療養病棟とともに、地域包括ケアシステムにおける在宅療養支援を入院機能においても行っている。また、美郷町立君谷診療所への管理医師の派遣を通じて無医地区での診療支援を行っている。また併せて併設の在宅強化型介護老人保健施設、医療近接型住宅「穏」、さらにサービス付き高齢者向け住宅を活用した在宅療養復帰支援などを行っている。一方、大田・邑智二次医療圏のみならず、浜田・益田圏域の医療機関に対しても医師を派遣しており、とりわけ公ではなしえない民間医療機関へ医師を派遣できることは地域医療を支援する重要な役割だと感じている。</p> <p>このように、社会医療法人仁寿会は、地域の社会資源を有機的かつ統合的に活用することにより、現在の社会医療・介護政策を地域ニーズに適合させつつ推進することに貢献している。</p> <p>1. 巡回診療等による地域住民の医療確保に関すること 平成26年10月より、ヘルスプロモーションカー（小型ドクターカー）「ざいたくん」による川本町の無医地区3地区へ巡回診療を行っている。 (1地区は患者受診実績がなく巡回診療休止中)</p> <p>2. へき地診療所等への医師及び看護師等の派遣（へき地診療所の医師等の休暇時等における代替医師等の派遣（継続的な医師派遣も含む）を含む。）並びに技術指導、援助に関すること 半世紀以上にわたり、美郷町立君谷診療所への管理医師、看護師、事務職員の派遣を通じて無医地区での診療支援を行なっている。</p> <p>3. 派遣医師等の確保に関すること 社会医療法人仁寿会の常勤医師は、本年10月現在11名※（男性医師10名、女性医師1名）。（※11名のうち、男性医師2名は3/週、女性医師1名は2/週の勤務）このうち8名で病院の外来診療、地域包括ケア病床診療、医療療養病床診療、居宅における訪問診療、介護老人保健施設仁寿苑の診療、診療所2カ所の外来診療を行っている。大田市立祖式診療所の指定管理を法人として請負、県西部のすべての二次医療圏それぞれの民間診療所（西部地域でその圏域唯一の透析医療施設）1カ所、民間老人保健施設2カ所、民間特別養護老人保健施設1カ所の代診診療への医師派遣、荘内診療所配置医師としての診療を行っている。 また、新たに大田・邑智圏域の診療所からも医師応援体制を求められており、これ以上の派遣機能を担うには、医師の確保が喫緊の課題。</p> <p>4. 地域の医療従事者に対する研修及び研究施設の提供に関すること (1) 地域医療実習初期臨床研修医も29年度は4名受け入れることができた。うち2名は東邦大学医学部附属病院から受け入れている。これからの地域において必要な総合医を育成するために多職種連携によるチーム医療を学ぶプログラムを提供している。</p>	Ⅱ	11	12

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
川本町	社会医療法人 仁寿会加藤病院 (81床)				<p>(2)また、島根大学医学部学生、広島国際大学薬学部学生、島根県立大学看護学科との医薬看専門職連携学生教育プログラムによる3学部学生合同臨床実習や、リハビリテーション専門学校学生など将来の地域医療人の育成支援として実習指導など教育活動も行っている。また、島根大学医学部および島根県立大学看護学科、また企業との共同による認知機能に関する研究や島根県ブランド品の開発あるいは販路拡大につながるなどの研究にも積極的に参加し、国内はもとより海外においても研究成果を発表している。</p> <p>5. 遠隔医療等の各種診療支援に関すること 25年度から島根県在宅医療連携推進事業の採択を受け、多職種連携による包括ケアシステムの構築を27年度まで行ってきた。28年度からは、邑智郡歯科医師会の協力を得て、邑智郡食事栄養支援協議会を発足した。また、29年度からは、しまね型医療提供体制構築事業を件より受託し、圏域の医療提供の課題抽出と解決に向けて取り組んでいる。このことにより地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目指すと共に、今後まめネットやICTを活用した在宅医療に関する施策の均てん化などに全力で取り組む準備を行っている。</p> <p>6. 地域の医療機関との連携による「ブロック制（拠点となる病院と近隣の診療所等では病院医師が専門診療を行い、学会や研修会出席時等における代診を相互に行う医師の相互交流システム）」等の推進に関すること 診療所の医師が学会等により不在の場合、在宅等での看取りに対応するための患者情報を共有し、在宅看取りを行うことができるよう体制を構築している。</p> <p>7. その他市町村が地域における医療確保のために実施する事業に対する協力に関すること 学校保健医として町内の保育園、小学校、中学校、県立中央高校、県立矢上高校の園児・児童・生徒の健康管理を行い、また、産業保健医として県立高校、地元企業、島根県警川本警察署を含め郡内7つの事業所の労働者の安全衛生管理を行い、地域衛生水準の向上に寄与するとともに、警察嘱託医として管轄内の遺体検案業務等警察行政への医療支援にも貢献している。</p> <p>以上のように多岐にわたって社会の公器としての公益的な診療・健康管理・社会活動を行う中で公益的な活動へのさらなる貢献要請が近年特に増加しているという現状がある。慢性的な医師不足という状況に変わりはない。</p> <p>非常勤医師の現状） - 派遣受け入れ医師数昨年度比減少 加藤病院は、島根大学医学部附属病院から多くの診療科にわたる非常勤医師を臨床指導医として派遣していただいております。地域において必要な専門性の高い医療サービスが提供することができる環境となっている。しかし、大学からの医師の派遣が困難な状況は依然として続いており、その結果、加藤病院常勤医師の上記医療に関する活動を継続するためには現在の応援体制の継続が必要。</p> <p>へき地医療を継続するには地域で活躍することのできる医師の養成が必要と考える。そのためには地域という「現場」で一定期間学ぶ必要がある。地域医療を担う医師をその現場を維持し、現場力を更新し続けることが極めて重要になると考える。 以上の理由により、へき地で働くことができる医師の派遣を是非お願いする。</p>			

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
邑南町	公立邑智病院 (98床)	5	3	3	<p>公立邑智病院は邑智郡内唯一の救急告示急性期病院として、邑智郡に不可欠の社会インフラである。高度医療、救命救急医療などを除く、急性期医療の8割を地域内完結することを目標に、各診療科が「相互支援」「相互指導」のもと、できるだけ専門分野にとらわれず診療を行っている。また、高度急性期病院から診療所・在宅までを繋ぐ中間的な医療機関として、病病連携や病診連携、介護福祉施設との連携強化を図っている。</p> <p>そのような中、当院の内科は平成26年4月から総合診療科と広告し、プライマリケアから、上部消化管、下部消化管の内視鏡検査など、幅広い診療や保健予防活動の分野においても重要な位置付けとなっている。今後は、地域医療拠点病院及び初期臨床研修協力病院として、診療所支援や在宅医療を行っていく必要がある。</p> <p>現在の運営状況として、許可病床98床の平成29年度病床稼働率は89.8%、うち平成26年10月から届け出ている地域包括ケア病床41床の病床利用率は94.8%となった。</p> <p><b>【H29年度データ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合診療科外来患者数 15,728人</li> <li>・内科専門外来患者数 1,542人(内訳：内分泌代謝741人、循環器内科478人、心療内科323人)</li> <li>・救急受け入れ患者数 3,499人(うち救急車700人)</li> <li>・内視鏡検査1,101件(内訳：胃カメラ857件、大腸カメラ133件、ポリペク111件)</li> <li>・エコー検査1,373件</li> </ul> <p>以上のことから、自治体病院として地域住民の負託に応える医療機能を永続するために、外来3診、入院、検査、救急、当直の体制を継続するには、最低5名の内科系総合医が不可欠である。よって、うち3名の医師派遣を要望する。</p>	I	9	11
邑南町	国民健康保険 矢上診療所	-	-	1	<p>邑南町矢上地区唯一の民間医療機関であった天川クリニックが平成30年8月末で閉院したため、天川クリニックの建物を利用して急きょ平成30年9月から矢上診療所を開設することとなった。今年度については県の代診医師派遣制度を活用して午前中診療を実施している。来年度4月からは新規建設中の建物に移って終日診療を行う予定で常勤医師を募集しているが、現在のところ決定していない。もし常勤医師が採用できなければ来年度4月からの診療ができない恐れがある。</p> <p>なお、矢上地区の人口は平成30年10月末で2,207名、矢上診療所では9月に186件、10月に294件の診療があった。隣接する日貫地区(人口456人)にある日貫診療所から患者が紹介されることもある。</p>	I	-	0

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
江津市	島根県済生会 江津総合病院 (300床)	3	0	3	<p>平成18年、現在地に新病院を移転開院した当初26名いた常勤医師も平成30年度は16名と激減している。 平成27年3月末には消化器内科医師3名の退職があり、平成27年11月から1名（2～3ヶ月交替）、平成28年4月からは更に1名派遣していただいたが、平成30年度については1名のみ派遣となった。平成31年度以降の派遣については現時点では未定。また、平成30年3月に内科医師1名の退職があり、現在は内科系常勤医師が内科診療を行っている。</p> <p>平成31年4月以降は消化器内科医師の確保を含め内科系常勤医師確保の目途が立っていない状況であり、更に内科系の診療体制が脆弱となり、また救急機能にも十分対応ができない状況が発生することが見込まれる。</p> <p>現在、島根大学及び鳥取大学から当直応援医師を派遣していただいているがそれでもほとんどの医師が月3～4回の当直を強いられている状況で、今後さらに当直回数が増加する可能性は高く、医師の疲弊感は限界まで達している。</p> <p>また、当院と江津市医師会において医師の高齢化と医師不足が進む中で、地域医療を維持し地域住民が安心して住むことができるよう平成31年度当初の地域医療連携推進法人の設立を目指し、取組を進めているところである。</p> <p>この取組は開業医の御子息の帰郷の促進や診療所の開業を目指す医師が済生会江津総合病院や江津市医師会での研修をしながら、診療所の継承準備や開業をするためのノウハウを学ぶとともに、済生会江津総合病院を拠点として江津市国民健康保険川越診療所をはじめ、市内の開業医の支援はもとより、近隣の無医地区の診療所も視野に入れ診療体制を構築したいと考えている。この取組が軌道に乗るまでには一定の年数が必要であり、医師不足で悩む地域のモデルケースにもなる。</p> <p>今の状況を打開することはできないことから、新たな取組を支援するために、派遣を強く要望する。</p> <p>(平成30年4月～9月の内科実績)  外来 延べ患者数 2,702名、外来収入 22,783千円  入院 延べ患者数 9名、入院収入 5,496千円</p>	Ⅱ	18	16
	西部島根医療 福祉センター (112床)	1	0	1	<p>1) センターの概要  当医療機関は島根県西部地域の江津市に位置し、病床数112床、外来診療科15科を標榜し島根県の西部圏域の地域医療を支える役割を担っている。医療機関の主な基礎データは以下のとおり。</p> <p>○標榜科  整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、小児科、内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、糖尿病内科、外科、小児外科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科、皮膚科、歯科口腔外科</p> <p>○患者数（平成29年度実績）  ・外来1日平均患者数 116.9人（再掲 内科系1日平均外来患者数 15人）  ・入院1日平均患者数 99.0人</p> <p>○医師数（平成30年10月1日現在）  ・常勤医師 6名（再掲 内科系0名）  ・非常勤医師 常勤換算数3.21名（再掲 内科系1.13名）</p> <p>○医師派遣事業（平成29年度実績）  ・乳児健診等 5市町村 年間39回実施（平成30年度は6市町村41回の予定）</p>	Ⅱ	5	5



市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
江津市	西部島根医療福祉センター (112床)	前ページからの続き			<p>2) 現在の問題点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●常勤内科医不在の問題（平成28年8月末より） 患者数1日平均約100人の入院部門については、医療機関であると同時に障害児者施設としての機能も有しているため、呼吸器管理や吸引吸入が必要な感染リスクの高い方など「重度重複障害」を持つ超重症児者・準超重症児者が多数を占めており、また成人の方が多数で、その方々の高齢化による内科系疾患（特に悪性腫瘍）のリスクが年々増してきているが、未だに内科系の常勤医師が不在の状況。 近年、島根県立中央病院等NICUでの急性期治療後の乳幼児を受け入れるケースも多く、医師の負担が増している状況。</li> <li>●医師の受け持ち患者数について 入院診療は、常勤内科系医師不在の状況の中、現在は4ヶ月から1年のローテーションによる派遣常勤小児科医1名が入所者80名を受け持ち対応している。また入所者21名と整形手術対象者数名を、整形外科医が担当しているが、整形外科外来も障害児者への専門医療とともに一般整形のニーズも高く、医師の負担が大きい。</li> <li>●小児科の予約待ちの状況 小児科は発達障害の診療を主に行っており、学校や関係機関からの紹介も多く、予約が4～5ヶ月待ちの状況となっている。2名の小児科常勤医のうち、1名の小児科医は多数の入院患者の対応で外来診療は難しく、状況の改善のため、他医療機関への患者紹介を行うとともに、市町村健診業務の見直しを行い診療日を増やすなどにより、常勤医1名と非常勤医で診療の対応をしているが、問題の解決には至っていない。新患の件数も継続して年間100名を超えている状況。</li> <li>●医師派遣事業 乳児健診をはじめとする医師派遣事業を島根県西部圏域で実施しており、乳幼児の小児神経や整形外科疾患の早期発見を行っている。小児科の予約待ちの状況を緩和するため、当センターが実施する医師派遣事業の範囲の見直しが必要である。</li> <li>●その他 内科系医師不在により敷地内の併設障害者施設の嘱託医の業務、常勤医の当直業務等を行っており常勤医個々の負担はさらに高まっている。</li> </ul> <p>以上から、今回派遣をいただいた場合、地域における外来診療や入院の重症児者への総合的な診療、併設施設の嘱託医、当直業務に対応していただくことにより、小児科の予約待ちの問題の緩和、安定した地域医療の提供、当センターの果たすべき役割である障害児者への充実した専門医療の提供、そして乳児健診をはじめとする医師派遣事業の充実した提供が可能となる。</p>			
江津市	国民健康保険川越診療所	1	0	-	-	I	0	0

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
浜田市	国民健康保険連 合体（波佐・小 国・あさひ・弥 栄・大麻）	1	0	1	<p>浜田市国民健康保険連合体は、中山間地域の医療を確保するため、5つの診療所（「大麻診療所」、「波佐診療所」、「波佐診療所小国出張所」、「あさひ診療所」、「弥栄診療所」）を運営しており、現在5名の医師（常勤2名、嘱託2名、パート1名）で診療をぎりぎりの状態で行っている。</p> <p>しかし、常勤医師1名は平成33年度末に定年退職を迎え、中山間地域の医療の確保はもちろんのこと、当市の保健・医療・福祉の課題解消に向けた各種行政施策への参画や、将来の地域医療を担う人材育成など、この連合体の果たすべき役割を維持し、新たな人材へ継承していくためには、早期の医師確保は必要不可欠であり、1年間連合体で従事する医師1名の派遣を強く要望する。</p>	I	3	2
益田市	益田地域医療セ ンター医師会病 院 (343床)	3	0	3	<p>平成30年度上半期における内科の外来患者延べ数は1,368名（1日平均患者数 約12名）、入院患者延べ数は7,013名（1日平均担当患者数 約39名）、1日平均新入院患者数は約1.9名、1人あたり宿直回数（月平均）は約3回である。</p> <p>一方、地域医療拠点病院として市内5ヶ所に巡回診療所を開設し、上半期で合計109回診療しているが、自治医大出身の医師は月に1回程度しか赴けず、残りは開業医に依頼しているのが現状である。また、診療応援については、国保知夫村診療所に合計6回出向しているが、院内の医師不足のあおりを受け、地元開業医の休診の際に代診を出せていない。</p> <p>以上のことから、当院内科の診療体制は非常に厳しい状況にあり、医師の負担軽減及び地域医療への貢献のため是非とも医師派遣をお願いする。</p>	II	10	13

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
津和野町	津和野共存病院 (99床)	1	0	1	<p>当院は、人口約7,000人弱の津和野町唯一の入院機能を持つ病院で、隣県の中山間地域にとっても必要とされている医療機関となっている。</p> <p>診療は外来82人/日、入院49床（一般16床、地方包括ケア病床33床）（平均入院患者数37人）を内科医3名、放射線科医1名の4名体制で対応している。また、近隣の特別養護老人ホーム2施設（入所者100名）、グループホーム2施設（入所者27名）、一般在宅（30名）への訪問診療を行っている。在宅療養支援病院として、介護老人保健施設（46床）含めそれらの施設の緊急時の受け入れ、看取りへの対応も行い、患者、利用者のみならずご家族の皆様、職員へ安心・安全な医療の提供を行っている。地域包括ケアシステムの一員として「住み慣れた家で、住み慣れた地域で暮らしたい」を支えるべく行政、地域住民と共に協力して在宅医療に力を入れ、訪問看護と連携して24時間365日対応体制を整え、在宅での看取りにも対応している。</p> <p>入院機能についても地域包括ケア病床を33床導入し、専門リハビリスタッフによる機能回復訓練の実施、看護師、介護福祉士、MSW、栄養士などが積極的に介入し他職種連携の下、在宅復帰を支援している。</p> <p>検診事業においても鹿足郡内はもとより益田圏域全体から、年間約1,600件を受け入れ圏域の健康保持増進に努めている。</p> <p>そのような状況の中、日々の診療はもとより、健診活動、入院患者の医療管理、救急対応、日当直と十分な休養の取れない現状。益田赤十字病院との医療連携を締結し、従来の島根大学等の協力を合わせて外来、日当直応援を頂きかろうじて対応している。</p> <p>救急告示を取り下げ、夜間診療の停止をしているが、圏域の医療確保のため日中の救急には可能な限り対応している。そのような状況の中、内科医3名のうち1名が病氣療養中となり常勤医師の勤務状況はさらに厳しいものとなっている。</p> <p>医療のみならず生活を支えている当院の存在は、この圏域にとってなくてはならない医療機関となっており、そこで働く医師の健康保持こそが最優先されるべきと考え、引き続き医師派遣の継続を要望する。</p>	I	5	3
	日原診療所	1	0	1	<p>当診療所は、主に津和野町及び隣接する吉賀町、益田市の住民に対応している。</p> <p>内科常勤医師1名により5日/週(外来患者数39名/日)訪問診療(36名/登録)を実施している。</p> <p>先般、日原地区に唯一の個人病院の院長が急死され、今後外来患者数も増加が見込まれる。地域住民の健康維持にとってなくてはならない医療機関である。</p> <p>現在、様々な形で医師確保に努めているが、思うように成果が出ず、医師一人体制では非常に不安定な状況である。</p> <p>また、当診療所の内科医師の健康維持のための有給休暇の取得及び研修、学会への参加による医療技術の向上は地域住民の安心・安全を守るために必須となる。これらのことにより医師派遣を強く要望する。</p>	I	1	1

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣 ②	要望 ③			H29	H30
吉賀町	社会医療法人石州会 六日市病院 (110床)	2	0	2	<p>当院は、島根県・山口県・広島県の3本の県境が交わっている地域にある病院で、入院・外来ともに3県の患者が利用されている。また、鹿足郡唯一の2次救急医療機関で、平成29年度における当院の実績は下記のとおりである。</p> <p>外来患者延べ数（平日）：35,556名（休日・夜間）：1,533人、（1日平均：130人）  入院患者延べ数：36,900人 稼働率：94% 救急車搬入件数：278件  救急車による転院搬送：98件 ドクターヘリによる転院搬送：19件</p> <p>現在、常勤医師は7名で、そのうち60歳以上の医師は3名。当直については、常勤医師4名及び他医療施設の非常勤医師等に協力して頂き、24時間体制で救急医療を行っている状況。今後、常勤医師の高齢化が進む中で、地域から求められている「最低限の医療提供」を維持するためには、医師の確保が必須であるため、医師派遣を要望する。</p>	Ⅱ	8	8
隠岐の島町	隠岐広域連合立 隠岐病院 (115床)	3	2	3	<p>当院は、隠岐医療圏の地域医療を担う地域医療拠点病院として、限られたマンパワーの中、島でできる医療の提供に向けて日々取組んでいるが、離島という厳しい地理的条件、超高齢化の進行する中、開業医の減少等もあり、当院の需要は益々高まっている。</p> <p>内科においては、外来患者数120名/日超、入院患者数は40名/日超となっており、特に外来患者数は同規模病院と比較すると非常に多い状況（全国平均の約2倍）であり、外来診療が14時までかかることもある。このような状況の中、内科医師には、救急外来対応（平成29年度実績：時間内救急車受入件数125件、時間内救急患者数1,897名）、内視鏡等の検査（平成29年度実績：上部1,809件、下部626件）、透析、リハビリ、また災害拠点病院としてDMAT必置時から内科医がリーダーとして対応するなど、様々な業務を兼務している。さらに宿日直（1人あたり月5回程度）（平成29年度実績：休日及び時間外患者数3,261名）への対応など限られた人数で多忙を極めている。</p> <p>島根県地域医療構想において病床機能の見直しはあるが、全体病床数では現状と同床数となっている。将来推計人口は減少の一途であるが、後期高齢者人口は2020年をピークに当面横ばい状態が見込まれ、複数の疾患を抱える高齢者の患者増加も見込まれ、医療事情は厳しい状況が続くものと考えている。</p> <p>今年度の内科診療体制は6名体制を維持できているが、疾患が増えている腎臓内科への専属配置、また島内開業医の後継者医師、地域枠医師などの勤務もあり、毎年のように次年度の診療体制が不透明な状況にある。医療クラークの配置ほか、来年度は特定行為研修を予定しており、今後も勤務医の負担軽減対策を図り、また今年度、島の医療人育成センターを設置し、研修体制、独自の医師確保確保対策等の取組みを強化しているが、離島の特殊性を鑑み、現状では、どうしてもお願いする医師数が必須である。</p>	Ⅰ	17	17

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
隠岐の島町	国民健康保険 都万診療所	-	-	1	<p>当診療所は、隠岐の島町都万地区の診療所として限られたマンパワーの中で、安心安全の医療の提供に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>離島という厳しい地理的条件、超高齢化の進行する中、また、地域に開業医もない中、当診療所はなくてはならない存在となっている。</p> <p>平成29年の診療の状況は、外来患者約21名/日、診療件数3,919件/年(参考:平成28年 外来患者約24名/日、診療件数4,233件/年)となっており、このところ人数、診療件数ともに減少傾向にある。しかしながら、患者が高齢者の方が多数を占める中で、やはり地域住民にとって必要不可欠なものであることは変わりがない。</p> <p>現在勤務している医師は、平成31年3月末で退職することになっており、これまで、町として後任の医師を島根県とともに探している状況だが、未だに見つかっていない状況。</p> <p>ここ数年医師招聘の必要がなかったが、当診療所の医師の退任が今年度末に控え、加えて五箇診療所の医師も平成31年9月末で退任することから、当診療所のみならず、隠岐の島町立診療所の診療体制が不透明な状況になっている。</p> <p>今後様々な方策を講じて医師確保対策を強化していくが、離島でなおかつ当診療所の特殊な状況を考慮いただき、どうしても要望する医師数が必要である。</p>	I	1	1
西ノ島町	隠岐広域連合立 島前病院 (44床)	1	1	2	<p>隠岐島前病院は、隠岐島前地域の3島唯一の病院であり、病院勤務医はブロック制により島前各診療所での診療にも従事するなど、地域医療拠点病院として島前地域の医療の中核的な役割を担っている。</p> <p>病院に勤務する医師は7名であるが、医師確保が困難な知夫村診療所、浦郷診療所、へき地三度診療所への医師の配置等を包括的に管理し、ブロック制の中で運用しており、診療所への恒常的な医師派遣のため、病院では院長を含め5名の常勤医師が診療を担っている。</p> <p>常設の診療科は内科2診と外科1診であるが、外科を内科医が兼務しており、内科外来では医師1人あたり約32.7人を、また、外科外来では医師1人あたり約23.2人の外来患者を診察している。</p> <p>診察時間は恒常的に13時頃までと遅く、患者数によっては16時頃まで診察する場合もある。また、病院医師は、消化器・循環器・呼吸器等、内科全般にわたり総合医の役割を担って診療しており、病院・診療所での診療のほか、胃カメラ・エコー等の検査にも従事するなど、少ないマンパワーで多忙を極めている。</p> <p>このほか、隠岐島前病院では在宅医療の支援体制を推進しており、医師の訪問診療等や西ノ島町内の老人福祉施設への往診も行っている。</p> <p>このような中、来年度は診療所へ恒常的に派遣している医師1名が長期研修により不在となることから、病院の常勤医が対応するため、実質1名の減員となる。</p> <p>本来の病院業務が多忙を極める上、診療所や在宅医療の支援など、島前地域の医療を維持していくため、現状の人員による診療体制の確保は必須であり、地域医療支援会議の派遣医師1名の継続を含む2名の医師派遣を要望する。</p>	I	6	6

市町村	医療機関名	H30		H31	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			H29	H30
知夫村	国民健康保険 知夫村診療所	1	1	1	<p>当診療所は、長い期間にわたり地域医療支援会議により自治医科大学卒業医師の派遣を受け、診療機能を維持してきた。 常勤医師獲得のため専門誌へ医師募集の広告を掲載する等懸命に取り組んでいるが、現在のところ目処がたっていない。 当診療所は、島唯一・村唯一の医療機関であり、無医村となることを避けるため、自治医科大学卒業医師の派遣を要望する。</p> <p>平成29年度 患者数4,994件（内急患数320件） 1日平均24件</p>	I	1	1
合 計		33	8	33				
病院		29	7	28				
診療所		4	1	5				